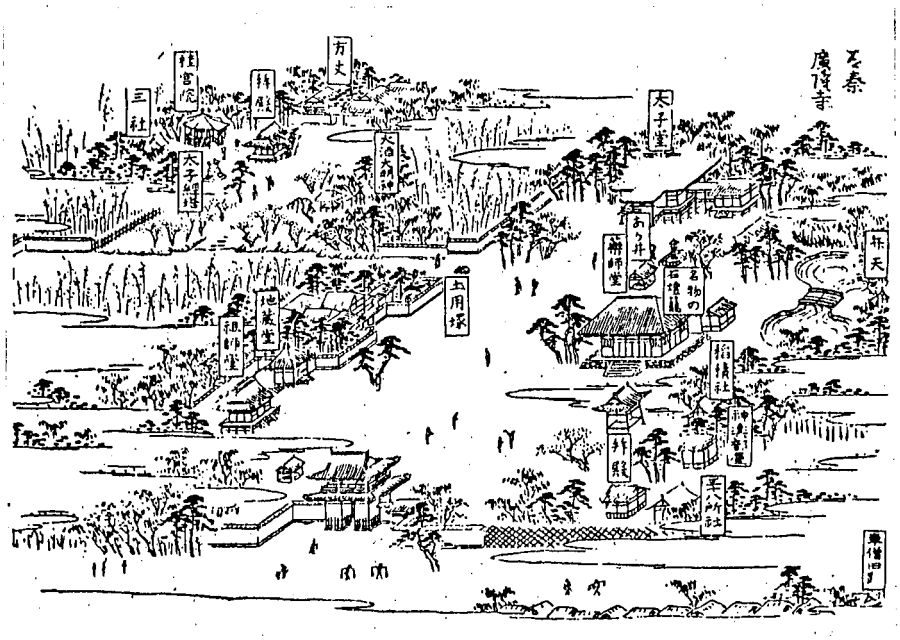
弁天島経塚

—現地説明会資料—



1977・11・17

財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

1　はじめに

弁天島経塚は、京都市右京区太秦蜂ヶ岡町36－1にあって、広隆寺の旧境内である。遺跡は、弁財を祀っていた弁天池の中島であり、東側には大酒神社と接し、北側には円山応挙の墓のある悟真寺と接している。

数年前に、広隆寺正面の楼門から、右京消防署との間を通って映画村へ通じるバイパスを建設した頃、この中島の頂上にあった弁天社を、広隆寺境内に移した。その時社殿の下から古銭、刀子などが出土し、ここが経塚であることが判った。（その時の出土品は現在、京都国立博物館に保管）この頃から池の水が涸れ、急速に泥土が堆積していった。島の上には大きな樹木が茂っていて築山状に見えていた。

池は東西40 m、南北30 m、島は直径12 m、高さは水面から1.5 mほどであったが、この池を埋めたてる造成工事の計画があって、発掘調査をはじめた。

今まで広隆寺の周辺では、バイパス工事の際の平安博物館による調査と、京都市埋蔵文化財研究所による右京区役所の調査があった。今回の調査は昭和52年11月14日からはじめ、約1ケ月の予定である。

2　中島の築成

今回の調査は主として経塚の築かれた中島の部分を中心にすすめており、まず、中島の樹木を伐採した後、池から島の頂上にかかるように、東西の長さ60m、巾3mのトレンチからはじめ、次いで南北方向にも同じようにトレンチを設けた。

この部分の調査によって、島の築成と経塚の築造のようすが判明した。島の築成はまず地山をならして、外径12mの島をつくり、まわりに杭を打って竹のしがらみを設けている。この杭列の50cm内側にも同じように杭を並べ、外側と内側の杭列の間にバラスをつめて島の外壁を作っている。その時島の周囲に巨石を5～6個配置している。巨石は下に礫を置いて安定させている。

次に島の内側に約60～70cmほど盛土をし、そこで経塚を築造している。経塚自体は大きな礫で幾つか築造され、その上から盛土をする。この盛土の中には平安時代初期から後期にかけての瓦が混入しているところからみて、広隆寺の境内の土を運んできたものと考えられる。このことは、この経塚の築造された年代と、広隆寺の建物群が焼失したりした年代と関連させて考えていく上で注目しなければならない点である。盛土が終ってから最終的にマウンドの外面を葺石でおおっている。現在葺石はマウンドの下半分に検出されるが、当初は全面であったのかもしれない。

3　経塚の遺構、

現在までに、マウンドの上で経塚と確認できるものは、石組みの埋納施設、炭のつまった部分、経筒の蓋、その他影青合子などの出土状態からみて10個所以上である。

このうちほゞ完全な形で残っていた第3号経塚は、まず平たい石を置いて底を作り、まわりに大きめの石を立てて、約90cm四方の石室とし、その中に経筒を入れた須恵質の甕（外容器・直径50cm）を置く。外容器のまわりには、石室いっぱいに木炭をぎっしりとつめ込み、石室の石の上面には、外容器をとりかこむような形で刀子を5本並べていた。

外容器の内側には、甕の口縁部や木炭が落ち込んでおり、経筒らしいものはなかったが、経筒についていたとみられる瓔珞の小玉が入っていた。

7号経塚は盗掘されており、底部の石だけが残っていて古銭や影青合子などが散乱していた。

2号経塚は3号に次いで外形がよく残っており、和鏡が出土している。和鏡は9号経塚からも出土している。

5号、6号経塚からは経筒の蓋が、16号からは外容器の蓋が出土している。その他、10号、12号、13号、15号は断面に底部の石と木炭が残っている。

4　出土遺物

出土遺物は大別して、盛土の中に混入している瓦類と、経塚に伴なう遺物に分けることができる。

経塚遺物としては、経典だけを除けば、ほとんどの遺物が経塚に一般的に出土するものと全く同じもので、時期は平安時代後期である。

刀子 …計8口出土、うち5口は3号経塚から.

鏡 ……計3面　　秋草文蝶雀鏡　径8.8cm（鏡面に布痕）

白銅製　秋草文鏡　径10.4cm（毛彫）

白銅製　八稜鏡　径約30cm

外容器及び蓋 …… 瓦質で胴部には突帯をつけ、線彫りの秋草文と「兼」「入」の文字がある。

経筒の蓋 …… 瓦質 1.　土師質 1.　銅製 1

青白磁合子（影青（いんちん））・六器・碗

小玉 …経筒の瓔珞

古銭 …… 五銖銭 1.　開元通宝 1.　北宋銭16種類
宋通元宝（968～975）――政和通宝（1111）

塼仏 …… 13号経塚から出土、千体仏のうちの2体分で金箔をはる。

銅鈴 ……1点

緑釉陶器

5　中間のまとめ

経塚はふつう、弥勒の出世の時を待つという末法思想から経典を埋めたものといわれ、わが国だけに見られるもので、藤原道長の金峰山経塚（寛弘4年、1007）が最も古いとされている。

全国で1000を越す経塚遺跡が知られている中で、京都府下ではその1割が集中しており、時期は11～12世紀に最も盛であった。従って、弁天島経塚もこうした時期に行なわれたのと同じようなものであったことがわかる。

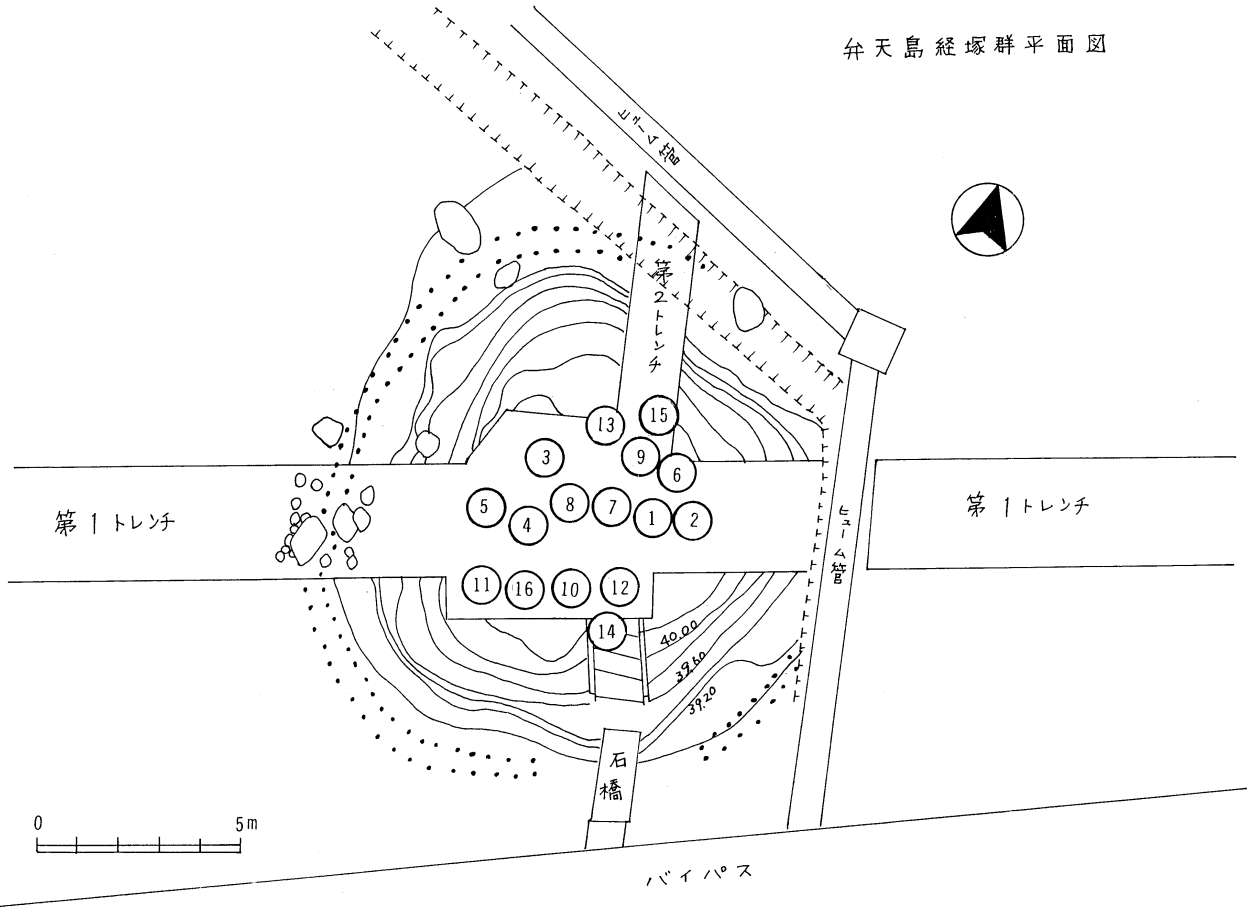
経塚研究の一つの課題である、経塚の起源という点についていえば、今の調査段階ではまだ明らかにできるものはみつかっていないが、この経塚が、広隆寺との関連で、どのような有力者が築造したのかという点については、少しは解答が出てくるだろう。

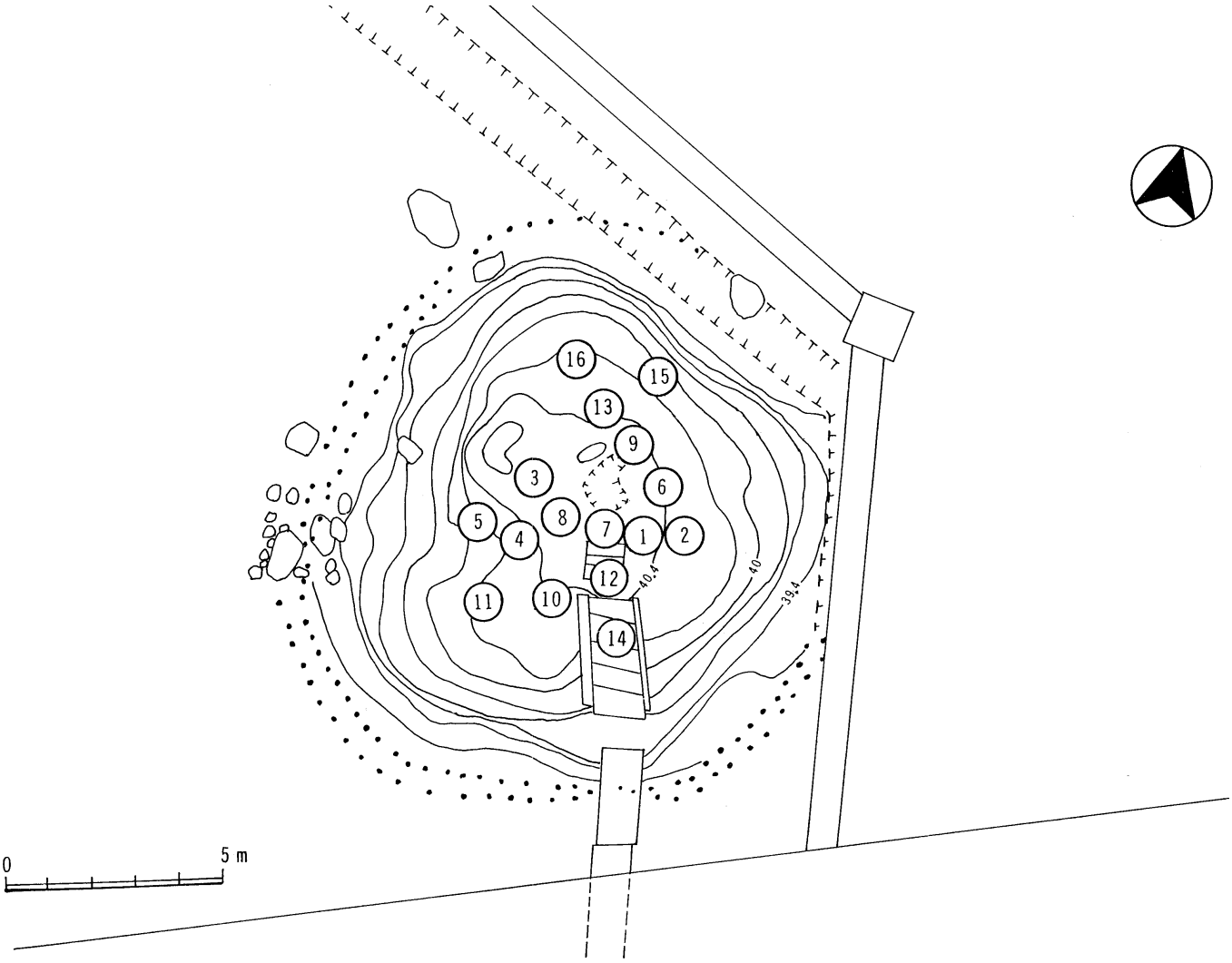
また池の中島に経塚を築造するという形は、文献の上では六波羅蜜寺にあったというが、発掘調査を行った例はなかったから、この点においても弁天島経塚の価値は大きい。

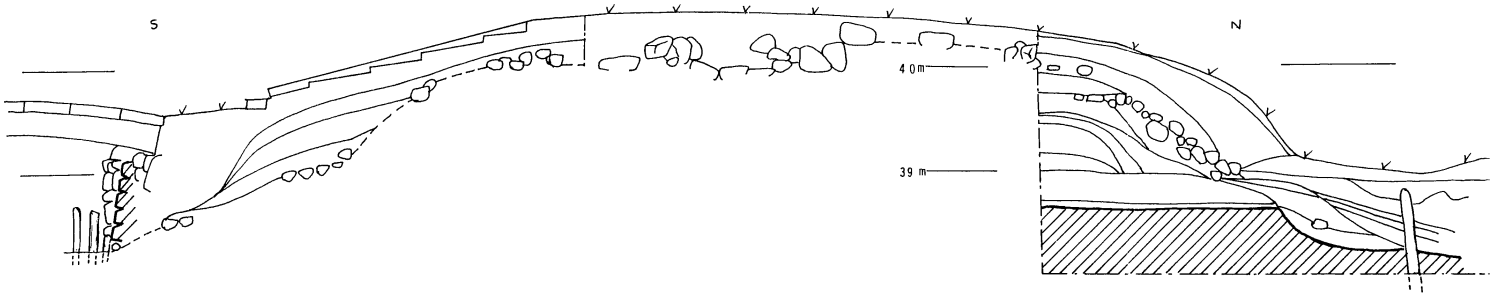
なおこの経塚は、何人かの人によって次々と築造されたものであり、このうちの幾つかはその時点で破壊されているものもあるが、これを弁天島経塚群とよぶことにしたい。

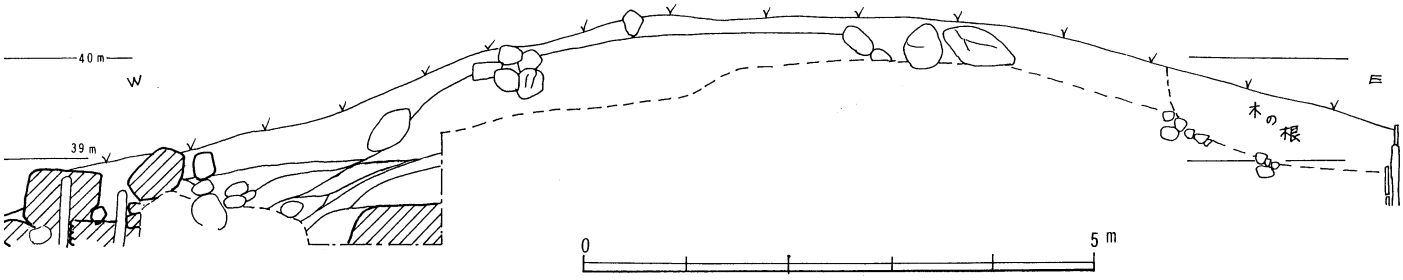
	経塚の構造	外容器	経筒	鏡	刀子	経典	銭	水晶玉		ガラス玉	土玉	木玉	平形影青		壺形影青		柄香炉	博仏	螺髪	円鍾金具	銅器	飾金具	鈴
								丸	円錘				蓋	身	蓋	身							
1号経塚							9			1			3	3									
2	B			1			48	22	3	18	3		6	11	1	2				1			
3	A	須恵器			5		2	1	2	108										3			
4		陶質(蓋)					3						2	2		2							
5			土師質				1																1
6	B	瓦質												1									
7	C																						
8	C																						
9	B	陶質(蓋)								5								2					
10	A	瓦質	銅		1		7	7	2	14	1		6	7	1	2	1		1	1			
11	C	陶質(蓋)		2			3			3		1	2	1	1			1					
12	C	須恵器	銅			経巻 礫石経	6	15	2	12		1	9	6	1		1			2	1		
13	C						1						1	1				1					
14		陶質(蓋)					1						4	5	1								
15	C			1																			
16	C	陶質(蓋)					2							1									
盛土、その他							27			9				2		2							

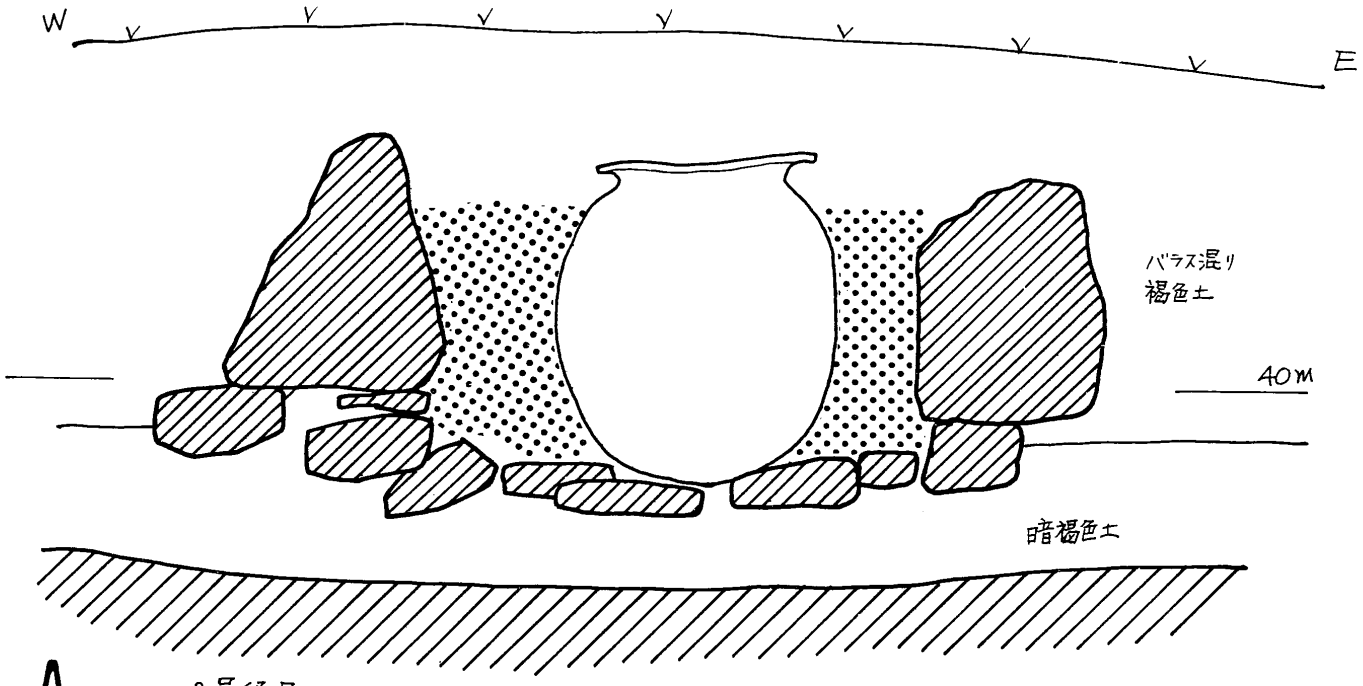
弁天島経塚群平面図




16
15
13
9
3
6
5
8
7
1
2
4
12
40.4
40
39.4
11
10
14
0
5 m

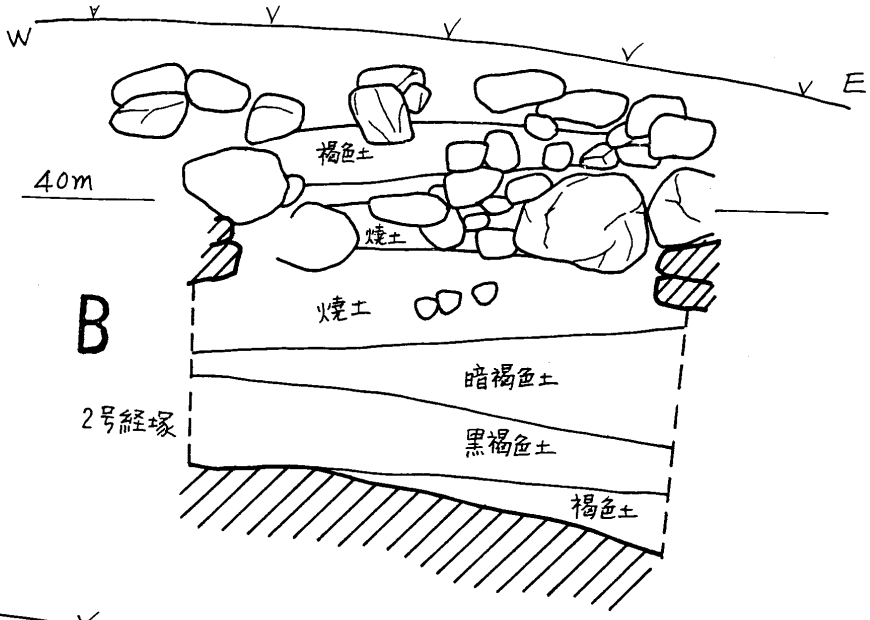

S
N
40m
39 m


40 m
W
39 m
E
木の根
0
5 m



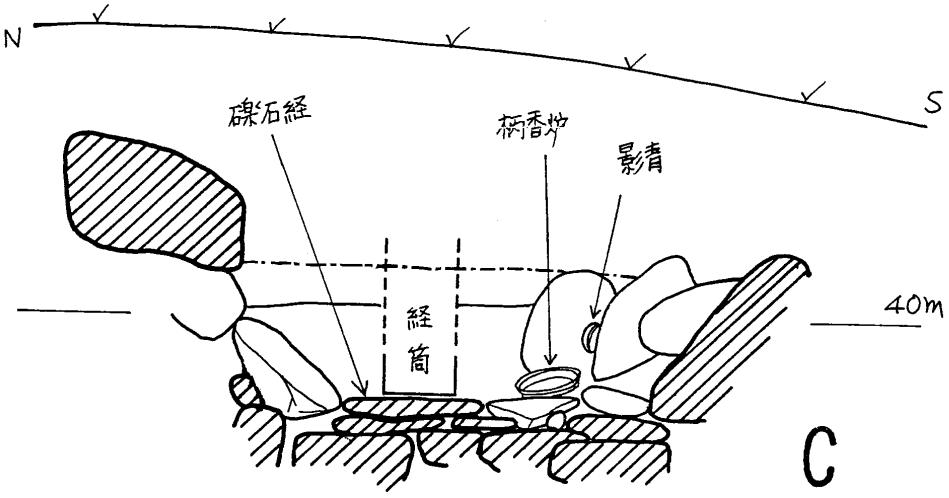
A

3号経塚



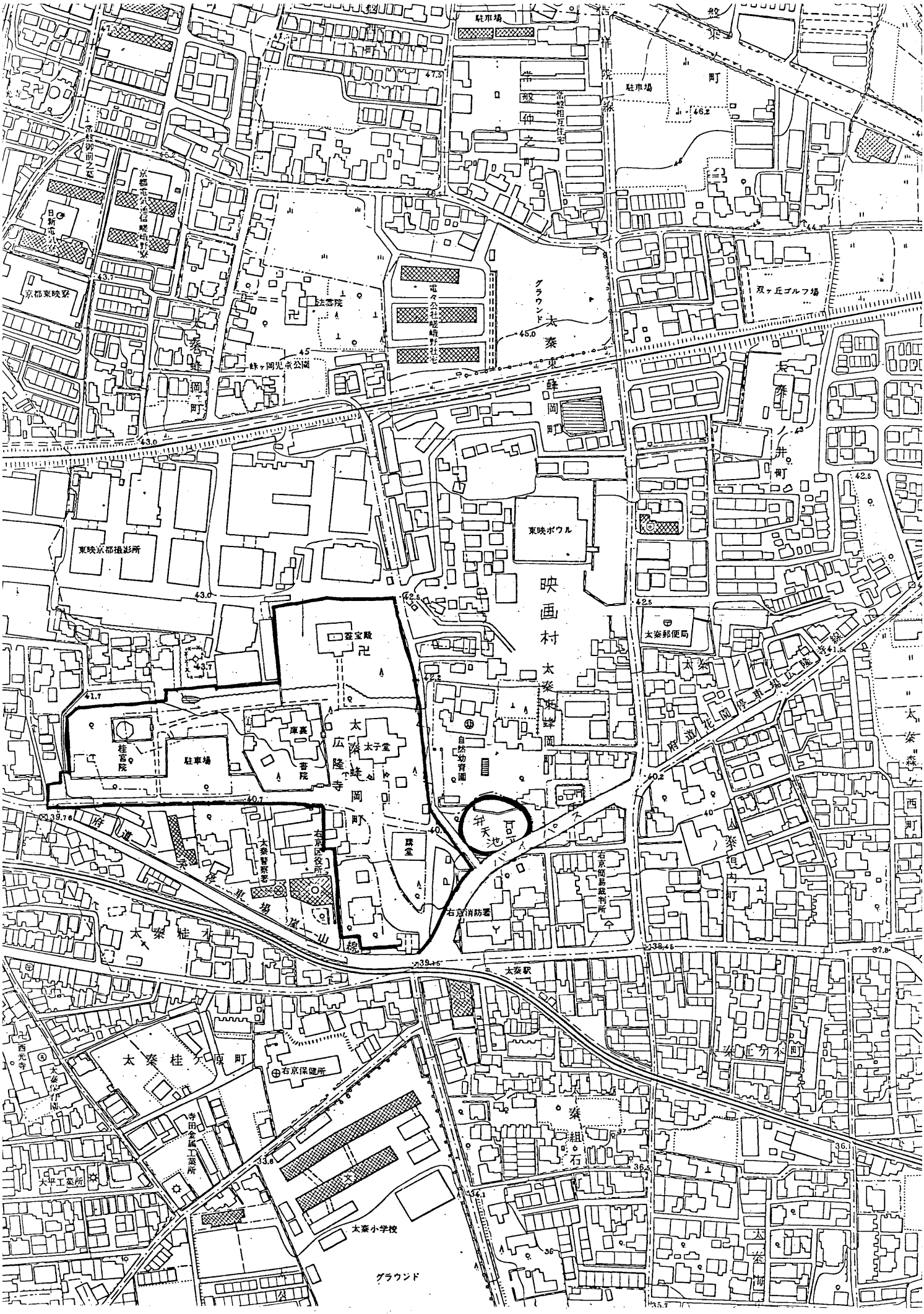
B

2号経塚



C

12号経塚


駐車場
常盤仲之町
常盤相互住宅
東山町
双ヶ丘ゴルフ場
京都電気通信嵯峨野寮
日新電機
京都東映寮
法雲院
電々公社嵯峨野社宅
グラウンド
太秦東蜂岡町
蜂ヶ岡児童公園
東映ボウル
東映京都撮影所
映画村
太秦郵便局
霊宝殿
庫裏
書院
太子堂
広隆寺
桂宮院
駐車場
自然幼育園
蜂岡町
弁天池
右京簡易裁判所
右京消防署
太秦警察署
右京区役所
太秦桂木町
太秦駅
太秦桂ノ原町
右京保健所
西光寺
太秦保育園
寺田金属工業所
大平工業所
太秦小学校
グラウンド
太秦組石
太秦西町